

① 広汎性発達障害(自閉症・アスペルガー症候群)

社会性の障害

他の人と関係をうまく持つことが難しく、暗黙のルールが分かりづらい など

コミュニケーションの障害

相手に自分の意思を適切に伝えることが難しい、表情を読む・抽象表現等を理解しにくい など

想像力の障害

変化が苦手な柔軟に対応しにくい、興味の範囲が狭くこだわりが見られる など

生活を組み立てることが難しく、就学期はスケジュールを組まれているため問題視されずに過ごせる場合もあるが、成人期になり生活を自己管理するようになると、問題が表面化することがある。また、相手の立場に立って考える等の心についての常識で判断するところを、その基準となる心の常識(心の理論)が未熟なことでコミュニケーションが上手く取れないといったことが起こる。

② 注意欠陥/多動性障害

多動性

動き回り落ち着かない、身体のだこかがいつもモゾモゾしている

不注意

うっかりミスが多く、順序立てて行動しにくい

衝動性

順番を待てない、興奮しやすく、突発的な行動を取る

脳機能障害を背景とした行動上の特徴から規定された障害。少なからず誰にでもある症状だが、自己コントロールできないと発達障害の診断が付き、社会的な活動や学業に支障をきたす。

二次障害(精神疾患)

発達障害には気分障害や強迫性障害、摂食障害、統合失調症など精神疾患が二次障害として合併することがある。

失敗経験の積み重ねによる疲弊

・環境による恐怖
・怒りや敵意
・低い自尊感情

・ひきこもり
・抑うつ状態
・対人恐怖症
・パニック障害
・強迫症状
・解離症状
・幻覚妄想状態など

*周囲が気づかないことによるミスマッチで、様々な二次障害が起こりうる。

ひきこもり

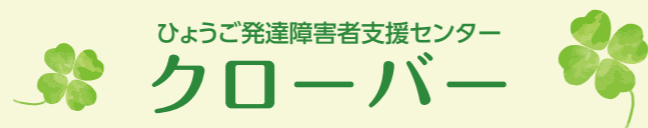
二次障害の一つの現象として「ひきこもり」が問題となっている。令和2年現在兵庫県内に、推計5万人のひきこもり状態にある人がいるとされている。(出典:兵庫県HP)

その元々の要因として、発達障害が故の生きづらさが関係していることがある。

ひきこもりとは

様々な要因の結果として、社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則6ヶ月以上にわたり概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)を指す現象概念である。(厚生労働省資料)

*社会的参加の回避には、参加したいと思っていても何らかの理由で参加できない人を含んでいるため、自由意志による回避ばかりではない。



平成14年度に国の「自閉症・発達障害者支援センター事業」として創設され、平成17年に「ひょうご発達障害者支援センター クローバー」に名称変更されました。兵庫県では平成15年12月に(社福)あかりの家に委託し事業を開始、平成17年6月より、県単独事業として県内5か所にランチを創設し運営しています。

クローバーでは、「相談」「機関連携」「コンサルテーション」「普及啓発・研修」「調査・研究」の5つの支援を行っています。

ご利用について

お子さん・家族・ご自身の仕事や将来のこと、福祉サービスについて、まずお住まいの市町発達障害者相談窓口へご相談ください。(各市町窓口はクローバーホームページ等をご参照ください。)各市町窓口が相談内容を伺った上で、必要に応じてクローバーへ相談依頼をします。

市町窓口と連携の上、相談(無料)を行います。相談に関してご不明な点があれば、お問合せください。

センター：(社福)あかりの家

上郡ランチ(中播磨・西播磨)：(社福)愛心福祉会

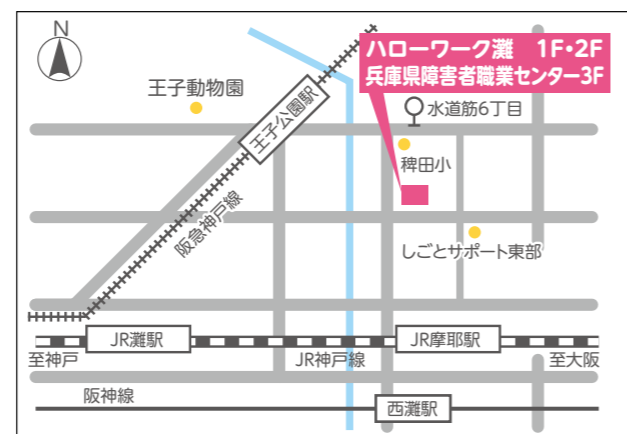
<http://auc-clover.a.la9.jp/index.html>



ハローワーク(公共職業安定所)、障害者就業・生活支援センターなど関係機関との密接な連携のもと、就職や職場定着、職場復帰を目指す障害のある方、障害者雇用を検討している、または雇用している事業主の方、障害のある方の就労を支援する関係機関の方に対して、支援・サービスを提供しています。

センターの利用について

- ・相談等費用は無料(通所の交通費は自己負担)です。
- ・ハローワークで相談中の方は、担当者を通じて申し込みます。
- ・直接のご相談希望の方は、あらかじめ電話でご連絡ください。
- ・相談内容はじめ個人の秘密はかたく守ります。



〒657-0833 神戸市灘区大内通5-2-2

TEL:078-881-6776

開庁日時:8:45~17:00(土日祝、年末年始を除く)

大人の発達障害と向き合う



発達障害がある大人は、日常生活のさまざまな場面で困難を抱えています。周りの理解は十分ではありません。また、発達障害があることに気づかず、生きづらさを抱えたまま生活している方もいます。

そこで、県民の皆さんの理解を深め、対応を考えるため、令和2年10月3日にたつの市赤とんぼ文化ホールにて「大人の発達障害について考える西播磨県民フォーラム」を開催しました。



内容

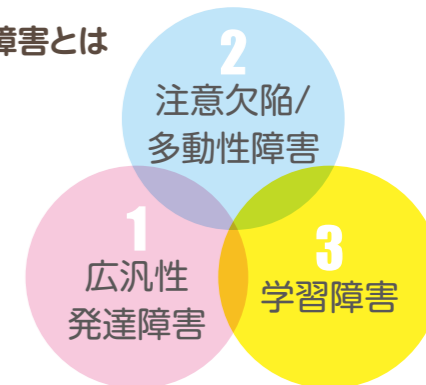
基調講演

ひょうご発達障害者支援センター
和田 康宏 センター長

パネルディスカッション

コーディネーター：和田 康宏 センター長
パネリスト：兵庫障害者職業センター
新谷 正樹 主任障害者職業カウンセラー
ひょうご発達障害者支援センター
上郡ランチ 福田 崇徳 相談支援員
兵庫県龍野健康福祉事務所
柿本 裕一 所長

発達障害とは



厚生労働省資料より

そもそも脳の機能障害であり、育て方・環境が影響して成長過程で出現するものではない。

ただ、関わり方によって障害の出現の仕方が変わる可能性があるため早期発見・早期対応により、その後の行動・特性面を変えることができる。

発達障害は「あり」「なし」ではなく、曖昧な特徴でスペクトラム(連続性)を形成している。

発達障害は外から見えずらく、他の症状(うつ、ひきこもり等)と併存することがあり、知的な遅れがある人もいれば、ない人もいます。

③ 学習障害

知的発達に大きな遅れはないのに、「読む」「書く」「計算する」において、特異なつまづきがあり、習得がとても困難など、能力に凸凹がある。

発達障害がある人の仕事のしづらさ

- ・臨機応変な対応が苦手
- ・同時にいくつもの事に対応することが難しい
- ・職場の同僚との雑談が苦手、話しかけるタイミングが分かりにくい
- ・暗黙のルールが分かりにくい など

背景

多くの人が青年期以降に障害を認知するため、職業の準備が整っていないことが多い。学生時代には大きな問題がなく、就職後のつまづきで診断を受ける人もいます。そのような場合、就職活動に向けた経験が少なく、また応用が苦手であるという障害特性に加え、ビジネスマナーや自己理解が不十分である人もいます。

自己理解の取組みが少なく、結果としてミスマッチが生じやすく、失敗経験が増える。良いマッチングのためには、自分の得意なこと、苦手なことを知っておく必要があるが、その取組みが少なく、自分に合った仕事を選べない。

障害を意識していない分、本人の思いと現実に乖離が生じて、ミスマッチが生じやすい。障害を理解、意識していないと、自分の「得意・不得手」よりも、「学歴」や「給与」で仕事を選ぶ場合があり、自分の職業適性と異なる仕事を選択し、上手くいかなくなる場合がある。

例えばこんな時どう支援する？

周りの人が

- ◆ 忘れてしまうことが多い
 - メモを取る（取らせる）
 - 「相手の聞く準備はできているか？」
 - 「理解した様子か？」などについて、確認しながら話をする
- ◆ 空気を読めず場に馴染めていない
 - 落ち着いて何が良くなかったのか知らせる
 - 人格の否定はダメ
 - 具体的な改善策を話し合う
 - 例)○○されたら嫌だから、◎◎と伝えよう
- ◆ どの程度やれば良いかわからない
 - 客観的なルールと一緒に決める
 - 例)来られるときに来て→火水木の10時に来て
- ◆ 同僚との関係をよくするために
 - ルールや手順をはっきり決める
 - 比喩や態度での理解を求めない
- ◆ 仕事の内容を伝えたい
 - 指示は具体的に、実演・手順書を用意する
- ◆ 指示を待たずに対応して欲しい
 - 対応のパターンを用意する
- ◆ 特別な予定があるとき
 - その日の予定や見通しをあらかじめ伝えておく
- ◆ 周囲に気にしすぎている
 - 集中できる環境を作る（音や視線等に配慮して）

どう向きあって、対応するのか？

職業準備への取組み

本人と周りが協力して

具体的に

◆ 自分を知る

職業評価：自身の作業能力や適性、職場に定着するための力を知る
 作業環境プロフィール：作業内容、作業環境で自分の得意、不得意を知る
 MAFA（職歴）シート：今までの仕事を振り返り、どういった仕事（職場）が合っていたのか、または合わなかったのかを見直す

◆ 職業準備をする

対人技能訓練（SST）：ロールプレイによる、職場での対人技能の向上を図る
 アンガーコントロール：「怒り」について理解し、怒りの感情に対するセルフマネジメント力を向上させる

◆ 定着に向けて

ジョブコーチ支援：ジョブコーチが職場を定期的に訪問し、職場に定着するために障害者、事業主、家族に支援をする

自分の作業特性を理解する

得意な作業、苦手な作業、
 ストレスを感じやすい作業、
 ミスが出やすい作業・・・

職場のマナーを理解する

分かりにくいものは具体的に

ストレスや疲労について知り、対処する

どういう場面でストレスを感じるのか、
 その時どのように対処すればよいのか



二次障害への対応（ひきこもり支援）

行政が

ひきこもりの状態にある人の意思に反して、強制的に自宅や自室から引き出すのではなく、地域の一員として安心して自分らしく暮らせる社会を実現すること。

潜在的ひきこもりに気づき、支援につなげる

- ・ 介護支援専門員等（支援先家庭内でひきこもり状態に気づく可能性が高い）から、引きこもり相談へつなぐ
- ・ 対象者に障害がある場合を想定して、介護支援専門員等への障害特性に関する学習機会の提供
- ・ ひきこもり相談窓口の設置
市町において、生活支援や障害福祉、介護福祉、関係機関と調整を行うことができる総合的な相談窓口を設置

個々の状況に応じた課題解決への支援

- ・ 市町を中心とした支援チームの充実
- ・ 適切なタイミングでの社会参加や、多様な就労につなぐ
- ・ 支援チームの人材育成
- ・ 居場所拡充と機能の充実、担い手の養成
- ・ 電子媒体を利用した居場所*の設置
多種多様な機能や特徴を有する居場所が多数あることが望ましい

*外出が難しい場合の過渡的な居場所として、オンライン上で、他のひきこもり状態にある人と交流し社会とのつながりを実感できるような環境

そのために

- ・ 年代層別や要因別等の支援マニュアルの整備
- ・ 学校や教育委員会と連携した支援体制の構築
早期発見、早期対応により、以後の社会との関わり方に変化が生まれる可能性がある。
他者との関わり方や、困ったときの相談先（依存先）を学ぶ機会を教育現場（就学時期）で提供する。
- ・ 情報発信
相談機関や家族会等の情報を提供



持っておきたいスキル

本人が

子どもも大人も持っておきたい、生活を豊かにするためのスキル

- ① 選択するスキル 「進路の選択」という壁にぶつかる前に、「今夜は△△を食べる」という選択からはじめる
- ② コミュニケーションスキル 要求・注目・拒否（上手く断ること）・受容
- ③ 力を調整するスキル 声の大きさ、活動と休息のメリハリ、常に100%でいなくて良い
- ④ 余暇を過ごすスキル ③の100%でない時間を持つために、読書や睡眠等に時間を使うこと
- ⑤ 精神的回復力 立ち直る力、心の回復力、しなやかさ
（困難な状況下で一時的に不適応的な状況に陥ったとしても、そこからうまく回復する力）

人・機関に頼ること

自立を目指すなら依存先を増やすこと。家族だけになってしまっていないか？
 困ったときに頼る先がないと自立はできない。



精神的回復力の3つの要素

- ・ 新奇性追求：新しいことを求める気持ち
- ・ 肯定的な未来志向：これから先、いろいろあるかもしれないが、基本的には明るく楽しく過ごせようと思っている
- ・ 感情調整：自分の気持ちを、ある程度コントロールできる

兵庫 ひきこもり情報ポータルサイト

<https://hyogo-hopstepjump.info/information/onlinespaces/>



家にいながらできる一歩。まずはお電話ください。

ひきこもり電話相談 ☎ 078-262-8050
 兵庫ひきこもり総合支援センター 受付時間 火曜日～金曜日 9:30～11:30・13:00～15:30 兵庫県

今後は違うSOSが出せるように

二次障害として、ひきこもり状態になっていたり、別の現象が現われていたりした結果、人間関係や仕事上手くいかず、問題を起こしたり、触法行為に至ってしまうケースもある。
 行政が行う長期的な支援として、その人が元の職場・地域に帰ってきたとき、次に困難に遭遇した際は違うSOSの出し方ができるよう支援していく。

